



# 富山市北代縄文広場 — 史跡北代遺跡 —

約4000年前を中心に営まれた大集落跡



画：森喜美

富山市教育委員会

## 北代縄文館の ご利用案内

### 開館時間

午前9時より午後5時まで

### 休館日

月曜日及び祝日の翌日  
(ただし、祝日の翌日が土曜日、  
日曜日の場合は開館します)  
年末年始(12月28日～1月4日)

### 観覧料

無料

## 体験学習

縄文土器づくり・縄文グ  
ッズづくり・縄文コース  
ターづくり・火おこしを  
体験できます。材料費  
(実費)がかかります。



## お問い合わせ

### 富山市北代縄文広場

#### 北代縄文館

〒930-0103 富山市北代3871-1  
Tel・Fax 076-436-3664

#### 富山市埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市婦中町連星754番地  
Tel 076-465-2146  
Fax 076-465-5032

## ホームページアドレス

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>



## 交通のご案内

- 富山駅よりタクシーで約10分
- 富山駅よりバスで約20分  
(富山地鉄バス  
北代循環行 北代新下車)
- 北陸自動車道  
富山I.Cより車で約30分

長岡地区自治振興会が富山市の委託を受け、  
広場の管理業務を行っております。

## きただい 北代遺跡のあらまし

北代遺跡は、縄文時代中期後葉（約4000年前）を中心に営まれた大集落跡です。遺跡は明治時代から地元でも知られており、多くの研究者が訪れて土器や石器を採集しています。

これまでの発掘調査により、東西280m、南北200mの範囲に縄文時代の<sup>たてあな</sup>竪穴住居跡が78棟、中央部分で高床建物跡が4棟確認されています。

また、旧石器時代、<sup>やよい</sup>弥生時代、<sup>なら</sup>奈良時代、<sup>へいあん</sup>平安時代の出土品や、奈良～平安時代の竪穴住居跡、高床建物跡、鍛冶遺構が見つかっており、この地に何度も集落が作られていたことも分かりました。

北陸地方を代表する貴重な縄文時代の集落跡として、昭和59年1月4日に国の史跡に指定されました。その後、地元の方々のご協力を得ながら公有化を進め、文化庁のふるさと歴史の広場補助事業として平成8年から10年度にかけて整備を行いました。

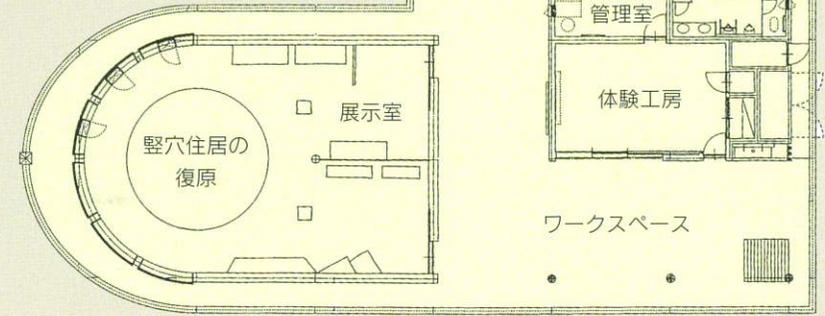


画：西村玲子

北代遺跡の復原図（イメージ）

## 北代縄文館（ガイダンス）施設の概要

- ・構造 鉄筋コンクリート 平屋 木造屋根
- ・延面積 234.3㎡  
（展示室112.8㎡、体験工房75.255㎡）  
（管理室ほか46.275㎡）



### 竪穴住居の復原



### 展示室



### 体験学習メニュー



縄文土器づくり



縄文グッズづくり



完成した縄文コースター



# 史跡北代遺跡周辺の 主な遺跡・文化施設 ガイドマップ



**小竹貝塚**  
縄文時代前期中葉～末葉(約6,000～5,000年前)の日本海側最大級の貝塚です。70体超の縄文人骨が出土し、全国的な注目を浴びました。史跡北代遺跡から徒歩25分。



**蜷ヶ森貝塚**  
縄文時代前期後葉(約5,500年前)の北陸を代表する貝塚の一つです。史跡北代遺跡から徒歩15分。



**長岡八町遺跡**  
縄文時代後期後葉～晩期前葉(約3,500年前)の集落遺跡です。県内最大の土偶が出土しました。史跡北代遺跡から徒歩10分。



**長岡御廟**  
富山藩主前田家代々の墓所です。御廟内には前田家歴代の藩主の墓や、藩主の重臣が奉納した約600基の石灯籠が並び立ちます。史跡北代遺跡から徒歩10分。

**富山市北代縄文広場**  
**史跡北代遺跡**



**五百羅漢**  
民俗民芸村管理センターの100m先、長慶寺境内にあります。先祖供養のため寛政11年(1799)、16体が寄進されたのが始まりで、その後50年間に500余体が奉納されました。史跡北代遺跡から徒歩30分。



**富山市民俗民芸村**  
民芸館・民芸合掌館・陶芸館・鯺牛人記念美術館・富山市茶室円山庵・考古資料館・民俗資料館・売薬資料館・とやま土人形工房からなる文化施設群です。民俗・歴史・考古・民芸美術の融合した独特の文化空間を形成しています。史跡北代遺跡から徒歩25分。(考古資料館076-433-8634)

## 北代遺跡の主な出土品



**縄文土器**(写真の土器は高さ36.6センチ)  
北代遺跡では縄文時代中期後葉の「串田新式土器」と呼ばれる土器が出土しています。ア力ガイやサルボウなどの貝殻の縁を押し付けてギザギザの文様を付け、口縁に大きな波形や橋のような飾りがあるのが特徴です。



**有孔罎付土器**(高さ13.1センチ)  
口縁から下の部分に罎が巡り、罎の上に孔が開けられている土器です。動物の皮を張って太鼓にしたという説、お酒の容器という説などがあります。



**三角とう形土製品**(左が長さ5.5センチ、高さ4.8センチ)  
底面が無文で、他の4面に文様が描かれているタイプと、全ての面が無紋のタイプがあります。紐を通す孔があいているものもあります。置いて使うことに意味があり、まじないなどに使われたと考えられます。



**土偶**(左が大きさ5センチ・富山県埋蔵文化財センター所蔵)  
人の形を表した縄文時代の土製品です。写真左の土偶は、目の中にタールが残っており、もともと玉石がはめ込まれていたようです。



**ミニチュア土器**(右上が高さ3センチ)  
小型の土器のことです。北代遺跡では、写真のような小さくても文様がある土器や、文様のない簡素な土器も見つかっています。



**石鏃**  
弓矢の先端につけられた矢じりです。大きさは約1～3センチです。先端が鋭く、三角形やハート型をしています。



**石錘**(左が長さ5.4センチ)  
漁網用の錘です。丸くて平らな石の両端を打ち欠いています。網の先端につける際、紐をゆわえやすくするための工夫です。



**タカラ貝形土製品**(長さ5.5センチ)  
暖かい海に住むタカラ貝を模して作られた土製品です。タカラ貝は別名子安貝とも呼ばれ、安産のお守りでした。この土製品も同じような願いが込められていたのかもしれませんが。



**岩版**(長さ8.7センチ)  
丸または四角のやわらかい石の表裏に模様が彫込まれています。北代遺跡出土の岩版は、Y字状の線と円形の彫込み、側面には三角形の彫込みがあります。



**打製石斧**(左が長さ11.5センチ)  
石を粗く打ち欠いて作った斧形の石器です。竪穴住居や高床倉庫の柱穴、ヤマモモやユリネなどの根茎類・球根類やクスなどの地下茎を掘る時に使われたと考えられます。



**磨製石斧**(左が長さ16センチ)  
石を打ち欠いて形を整え、砥石で磨いて作った斧です。大型の石斧は木の伐採などに使い、小型の石斧は木に穴をあけたり、骨などの加工の際に「ノミ」のように使いました。



**石棒**(長さ11センチ・下半分は欠損)  
男性を象徴したと思われる石製品です。子孫繁栄のまつりの道具であったと考えられます。



**ヒスイ製大珠**(富山県埋蔵文化財センター所蔵)  
「硬玉製大珠」とも呼び、長さ5～15センチのヒスイに穴をあけた飾り玉です。北代遺跡で見つかった大珠は、長さ14センチの大型の部類です。

